

ま え が き

文教大学教育研究所

所 長 平 沢 茂

昨年度、本報告書の前段となる研究報告書刊行の後、研究所内で研究所としてFDにどう取り組むかの議論を重ねてきた。その中で、他大学の取り組みを見るにつけ、本学でも授業公開に取り組む必要が確認された。

とは言え、いきなり全教員の理解を得ることは不可能であるし、まして、他大学で見られるような全教員の出席を義務化することなどできるはずはない。歩きながら考えようということで、授業研究会の先生方と協力してとにかくコマを進めてみようということになった。このような経緯で、本研究所は、昨年12月1週目に大学授業研究会の協力を得て、授業公開の試みを実施した。

周到な用意の下で実施したと言うよりは、とにかくコマを進め、歩きながら考えようということでもあり、参観者が1人もいないという状況も想定していた。実績を上げることより、次年度以降の展開を考える手がかりを得るという目的を見失わないことに比重をかけたのである。このような趣旨を踏まえて、6人の先生方が、ご自分の授業を公開してくださった。想定していたように、参観者は少なく、参観教員は延べ人数4名、参観者ゼロの授業もあった。

しかし、このような事実をどう克服するか、真の授業改善に向けてどのような取り組みが必要かを考える手がかりを得るためには、良い機会となった。そのために、実施後に、授業を公開してくださった先生方と教育研究所スタッフとの意見交換会を持ち、次に進めるコマの検討をした。その結果、次年度は、研究会のメンバーを中心に、相互に授業参観し、授業研究会を持とうということになった。そのような実践を積み上げつつ、一方で、授業改善の取り組みを学内に報知する工夫をすることで、授業公開を含めた幅広い授業改善の取り組みが全学的に広がることを期待しようということである。次年度の展開等は無理せず、しかし、着実な進展を期して、研究所内でも検討を加えているところである。

次年度以降のことはいずれ、研究所ニュースや研究所年報でもお知らせすることとして、ここでは、今回の取り組みから見えたいくつかの課題を整理しておきたい。

まず第1は、他教員の授業を参観した教員は、そこからなにがしか考えるべき課題を得るに違いないということである。私自身、今回の授業公開でビデオを録画しつつ見せていただいた大島先生の授業から得たものがいくつかある。今、そのことを述べる余裕はないものの、こうした経験は誰もが持つに相違ない。

第2は、参観者が少ない理由についてである。最大の理由は、授業公開、授業改善に

関する教員の意識が、まだ十分ではないということであろう。しかし、もっと、現実的な別な要因もある。たとえば、今回、私が大島先生の授業しか見られなかった理由は、他の授業時間帯に、私自身は別な仕事をしていたということである。自分の授業であったり、事務仕事であったり、と中身は様々であるにせよ、とにかく、物理的な理由で、授業の場に足を運ぶことができなかったということである。

その他、小さな課題はいくつか指摘された。しかし、それらについては、次の報告書でまた、ご報告したい。

この報告書は、今回の試みで授業公開をしてくださった先生方の、授業公開に関するご報告を収録した。併せて、常葉学園大学の全学的な公開授業の様子を参観させていただいたので、その報告を収録した。これらの報告をお読みになって、学内の先生方が、FD＝授業改善について、少しでも関心をお持ちくださるなら、それもまた本学におけるFDの前進に他ならない。

最後に、本報告書において中本先生が指摘されるように、真の授業改善は小手先のスキルアップに留まるのではなく、まさに、大学とは何かを基底に据えた上での、授業の改善でなければならない点を強調しておきたい。この点については、つい先頃刊行された『湘南フォーラム』（文教大学湘南総合研究所紀要）第13号における拙論でも指摘しておいたところである（「梅根悟の大学論から見た大学及びFDの現状と課題」）。

本学の授業改善に関しては、本研究所が刊行する『文教大学の授業』も、授業公開の試みの1つである。こうしたユニークな取り組みにも目を向けつつ、本学の授業改善をどう進めるか、様々なご意見を頂戴したいところである。本報告書もまた、その一翼を担うに足るものであると考えている。